

浦舟だより

令和6(2024)年 2月 1日
第 10 号 (第291号)

横浜市立浦舟特別支援学校
E-mail: ysurafun@edu.city.yokohama.jp

歴史をたどって

副校長 小滝 愛子

本校の歴史は、昭和 23 年までさかのぼります。昭和 23 年 12 月、横浜市は結核児童の医療施設「横浜市二ツ橋学園」を開設し、学園内に「横浜市立瀬谷小学校二ツ橋分校」を開校しました。この分校が、本校の始まりです。学校を併設した病院は、当時、全国的にも画期的な医療施設として大きな期待がかけられたそうです。当初は、市内の小学生のうち、5、6年生のみが対象となり、80名ほどが在籍していました。



開園当時の二ツ橋学園

昭和 34 年には小学校全学年の結核児童に対象を広げました。この年の在籍児童数は 144 名という記録が残っています。その後、医学の進歩と BCG 接種の普及、戦後の経済復興に伴う生活環境の向上、児童の栄養状態の改善により市内の結核児童は急速に減少しました。昭和 38 年には、病種の変化がみられ結核以外の児童の在籍が増加しました。

昭和 41 年には病弱教育の充実を図るため、横浜市立二ツ橋養護学校として小学部だけの病弱養護学校に改組され、昭和 54 年には中学部の設置と訪問教育がスタートしました。昭和 56 年、二ツ橋学園は横浜市小児アレルギーセンターと改称し、結核医療施設としての役割を終えました。その後、横浜市民病院、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、横浜市立みなと赤十字病院の 4 か所に院内学級が設置されました。平成 18 年に、本校施設が南区浦舟町に移転した後、平成 19 年、横浜市立浦舟特別支援学校に改称し、現在に至っています。

過去の記録には、学校や病院職員の取組や思いが記されています。二ツ橋学園開園当初は、まだ戦後の食糧難の時代にあったため、毎日の食事に職員が苦心したこと、医療と教育という立場の異なる職員が児童生徒に関わっているため、互いによく話し合い、理解し合うことの必要性、病弱教育の充実と発展を願う気持ちなどです。医療と教育が専門家集団として、互いに研鑽を積みながら歩み続けてきた歴史があります。その歴史を振り返り、脈々と受け継いできた病弱教育への思いを大切にしていきたいと思います。

書き初め・冬の飾りを作りました*

～本校・センター院内学級～

1月になり、書き初めや冬をイメージした壁面装飾に取り組みました。それぞれの個性が光る作品に仕上がっています。

落語の出前教室は、お話を聞くだけでなく、そばを食べる場面の表現を教わったり、落語家さんからの問いかけに答えたりするなど、伝統芸能の世界を楽しみました。



2024年

～福浦院内学級～

新年最初の日には今年の目標を書いたり、福笑いやコマ回しなどの正月遊びを体験したり、書き初めをしたりしました。



図工では冬の壁面装飾を作ったり、七宝焼きをしたりしました。今年もみんなでいろいろなことに取り組んでいきます！

アーティストが学校へ



22日にセンター病院、23日に保土ヶ谷病院へ落語家の三遊亭わん丈さんに来ていただきました。古典落語の「牛ほめ」を聴きました。

学習活動の様子

～訪問指導学級～

国語の学習で作ったものを紹介します。それぞれ、自分らしさのある作品になりました。



国語の「ものの名まえ」の学習で、おみせやさんごっこをしました。文房具屋さんを開きました。



名古屋城の魅力を紹介するリーフレットを作りました。

福

2月の予定

- 1日(木) 全校朝会
- 7日(水) アーティストが学校へ
(伝統芸能/福浦)

- 11日(日) 建国記念の日
- 12日(月) 振替休日
- 23日(金) 天皇誕生日

その他の予定は、各院内学級よりお知らせします

